



県内図書館紹介



釜石市立図書館

1. 概要

釜石市は人口4万4千人、三陸海岸のほぼ中央に位置し、鉄と魚のまちとして栄えてきましたが、現在は製鉄所の高炉の火も消え、漁業もいまひとつです。

しかし、来年は新仙入道路や湾口防波堤が完成し、釜石市が交流拠点・物流拠点として飛躍する大切な年となります。

現在の図書館は、小・中学校や病院、税務署などに囲まれた、落ち着いた雰囲気のある場所に、昭和58年に新築移転しました。

2. 紹介

現在の蔵書数は、約12万5千冊です。遠隔地の利用者には、移動図書館車「しおかぜ号」が61ヶ所のステーションを巡回しています。

当館では、“本と図書館に親しんでもらい読書活動を推進する”をモットーに、県立図書館から作品を借り受けての各種巡回展の開催、手づくり絵本教室や読書感想文コンクール等の各種事業を実施するとともに、“奉仕活動を通じて本と図書館に親しんでもらう”ことを目的にボランティア募集を行いました。

また、本年3月には、市民及び図書館利用者のニーズに迅速かつ適切に対応するため、情報化時代に対応した図書館情報システムを整備し運用を開始しました。同時に、この図書検索システムを有効活用していただき、利用促進を図るため、市民を対象とした「情報システム体験学習」を実施しました。



今年度、釜石市は「子どもの読書活動推進計画」を策定し、“子どもが楽しみながら自主的に読書に親しむ環境づくり”を目標に取り組みを進めます。図書館としても、積極的に学校図書館等の関係機関と連携を進めていきたいと考えております。

宮古市立図書館 新里分室

1. 概要

6月6日、宮古市と田老町、新里村が合併し、新宮古市が誕生しました。新市誕生に伴い、新里村生涯学習センター図書室は宮古市立図書館新里分室としてスタートしました。

2. 紹介

新里生涯学習センターは、中学校の統合により廃校となった旧茂市中学校校舎を改築して、今年4月に生まれ変わった施設です。

当センター図書室の特徴は、郷土の偉人である県内道路開削の先覚者・牧庵鞭牛和尚、大正から昭和初めにかけて活躍した音楽家・鳥取春陽に関する書籍をとり揃えているところです。

また、図書室と併設する談話室には、地元出身の童話作家である茂市久美子さんの作品や資料を集めた「茂市久美子童話コーナー」があり、茂市さんの童話の世界をゆったりと楽しむことができます。

あわせてセンター1階には、牧庵鞭牛、鳥取春陽、山岳写真家の藤田弘基さんの写真や関係資料を常設展示しており、多くの来館者に見学して頂いており

ます。

宮古市立図書館分室としてスタートしたばかりですが、今後はさらなる本館との緊密な連絡体制の確立を図り、新しい事業展開も試みながら、市民に親しまれ、市民が集う場となるようサービス向上にスタッフ一同努めていきたいと考えております。

